
【別紙】環境への個別の取り組み

私たちの事業活動で発生する温室効果ガスにより気候変動が深刻になれば、私たちが最も影響を受けるのはタイヤの原材料である天然ゴムと製造工程で使用する水と考えています。この認識のもと、マテリアリティの要素である「気候変動」「循環型経済」「生物多様性」は独立した取り組みで対応するのではなく、相互に関連することを理解し、統合的にアプローチしていくことが必要と考え、ステークホルダーと対話を重ねながら、環境への取り組みを進めています。

●気候変動

私たちの事業活動は多くの温室効果ガスを排出しています。脱炭素化社会の実現に向けてサプライチェーン全体の排出量の削減を進め、2050年のカーボンニュートラル達成を目指します。

私たちは気候変動が私たちの事業に及ぼす影響についての評価を継続的に行い、気候変動の緩和と適応に取り組んでいきます。気候変動の緩和に貢献するため、省エネルギーの推進、コージェネレーションシステムの拡大、太陽光発電の導入、再生可能エネルギー由来の電力調達に組み込み、低燃費タイヤなどの環境配慮型商品や、タイヤの低内圧走行による損傷予防・環境配慮サービスの開発促進、グリーン購買、グリーン物流などライフサイクル全体において、気候変動の緩和に向けたさまざまな施策に取り組めます。また気候変動が私たちの事業へ及ぼす影響としては、気温上昇に伴う豪雨などの自然災害の激甚化による生産設備への損害、主要な原材料である天然ゴムの収穫不良による価格高騰をはじめとした原材料調達への影響、降雪量の減少によるスタッドレスタイヤの需要減少などが考えられます。私たちは継続的なリスク管理を通じて、これらの影響への適応能力およびレジリエンスの向上に取り組めます。

●循環型経済

私たちは、多くの資源を活用するものづくり企業です。限りある資源を持続的に活用するために、調達から廃棄までのすべての過程において資源循環を推進します。

タイヤ事業におけるサーキュラーエコノミー構想「TOWANOWA(トワノワ)」(※ii)において、「企画・設計」「材料開発・調達」「生産・物流」「販売・使用」「回収・リサイクル」の各プロセスで得られるデータを連携・活用し、新たな価値を提供する『データリング』。モノの流れを各プロセスで繋げて循環させ、資源の有効活用と、サーキュラーエコノミーの実現を目指す『サステナブルリング』。これら2つの輪を融合することで、新たな価値を生み出します。たとえば、サステナブル原材料の開発スピードを加速し、限りある資源を循環させて有効利用することや、センシングコアをはじめとした独自のビッグデータ活用により、お客様に新たな価値を提供することで、次世代モビリティ社会をはじめとした持続可能で安全・安心・快適な社会の実現に貢献することを目指します。

住友ゴムグループ

●生物多様性

私たちの事業は自然資源や化学物質の利用、および製品使用の過程で生態系に影響を与えるリスクがあります。自然資源と生態系の恩恵を将来世代につなげるために、事業による負の影響を小さくし、生物多様性の保全と回復に努めます。

私たちは、TNFD 提言が定める「ガバナンス」「戦略」「リスクと影響の管理」「指標と目標」の 4 つの柱に則した取り組みを開示します。LEAP アプローチに沿って事業における環境への依存と影響、リスクと機会を特定・評価し、重要課題に関する対応策の検討を行い、緑化活動や絶滅危惧種の保全活動、水使用量の削減などの生物多様性・自然領域における取り組みを推進します。

●環境マネジメント

私たちは、環境目標に対する PDCA サイクルによる継続的改善のため、環境管理の国際規格 ISO14001 のグローバル統合認証を取得し、国際規格に基づいた環境マネジメントシステムを運用・実践します。

事業活動によって生じる環境に影響を及ぼす要因について、継続的なモニタリングを実施し、法令などに要求される値よりも厳しく設定した自主基準を順守します。化学物質については、健康・安全・環境へ大きな影響を与えることを考慮し適正に管理します。使用する資源については、最小化と再資源化を進め、廃棄物の発生を削減します。

私たちは、本方針を達成するため、常に環境に配慮し、個性豊かな発想をもって、積極的に行動していきます。

2024年12月16日
住友ゴム工業株式会社

※ⁱⁱ[「タイヤ事業におけるサーキュラーエコノミー構想「TOWANOWA\(トワノワ\)」](#)